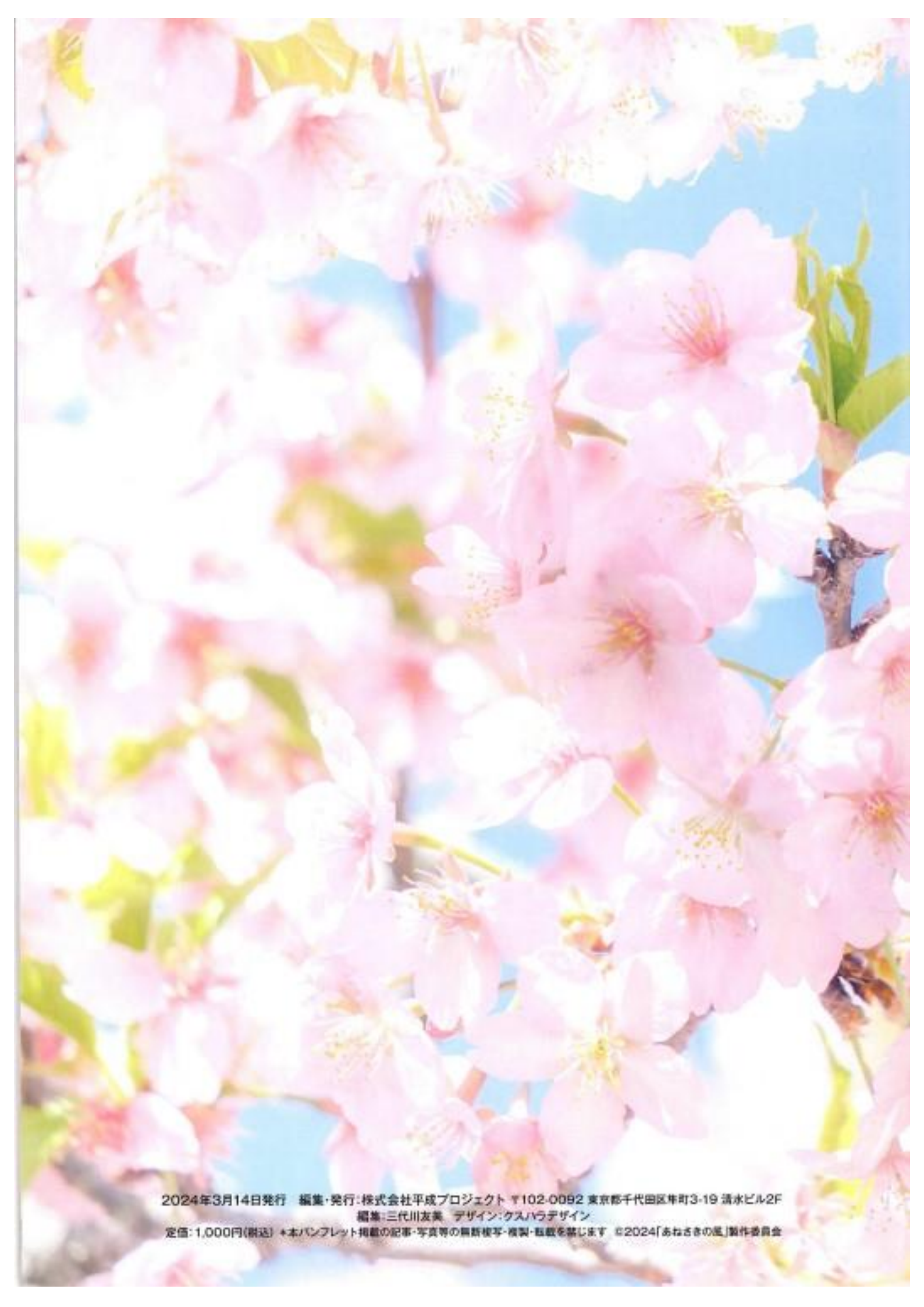


あねさきの風

～学び直しで立ち直った不良たちと学校の物語～



2024年3月14日発行 編集・発行：株式会社平成プロジェクト 〒102-0092 東京都千代田区幸町3-19 清水ビル2F
編集：三代川友美 デザイン：クスハラデザイン
定価：1,000円(税込) ※本パンフレット掲載の記事・写真等の無断複製・複製・転載を禁じます ©2024「あねさきの風」製作委員会



めげない
ぶれない
あきらめない



Story

千葉県にある「姉崎高校」。

校長として赴任してきた白鳥秀幸が見たのは、喫煙、万引き、暴力など問題ばかり起こす生徒たちと、荒れ果てた校舎という惨憺たる光景。

日に日にエスカレートする彼らの悪行に近隣住民の苦情が絶えない中、白鳥が学校を蘇らせるべく第一に掲げた目標が……「あねさきの風」。

あねさきの「あ」。あかるいあいさつができる

あねさきの「ね」。熱心に何事も取り組む

あねさきの「さ」。最後まであきらめない

あねさきの「き」。希望と夢をかなえる

その後、教育改革のために力を入れたのが、「学び直し」「挨拶運動」「ゼロトレランス」と呼ばれる取り組みだった。

これらの試みは初めこそ受け入れられず苦戦したものの、新人教師・新田真一郎や地域の顔役であり豪傑女社長の榊輝子らをも巻き込み、学校の名誉挽回に挑む。

すると、白鳥のひたむきな姿勢と熱意が、徐々に周囲の人々の心を動かし、不良学生のカリスマ的存在かつ、輝子の息子でもある榊健人をはじめとする生徒たちや、教員、地域住民が一つの輪になって変わり始めた。そのとき、ある事件が起きる――

実話に基づく、涙と笑いの、学校改革エンターテインメント!

～「あねさきの風」の舞台化まで～

「学び直し」で 学校革命



横浜敬愛高等学校校長

白鳥秀幸

1950年千葉県市原市生まれ、法政大学法学部・文学部卒業。

習志野市立大久保東小学校、国語の教員として県立生浜高校(新設校)、県立本更津高校(伝統校)に勤務。県教育委員会の指導主事、教育課程室長。2004年新任校長として姉崎高校に赴任。「学校を潰せ」と言われていた教育困難校を「学び直し」で再建。その改革のプロセスをまとめた「姉崎高校のホップ・ステップ・ジャンプ」で学事出版教育文化賞最優秀賞を受賞。2008年県立幕張総合高校校長。2012年市原市教育長、敬愛大学経済学部客員教授。2016年敬愛学園高校校長。2019年から現職。

ごあいさつ

本日は俳優座劇場にお運びいただき感謝申し上げます。20年前知恵を絞り、汗をかいて取り組んだ「学び直し」は高校の学習指導要領に位置づけられました。夢が叶った『あねさきの風』の舞台化は、多くの皆様のお陰でできた結晶です。皆様に心から感謝申し上げます。最後までごゆっくりお楽しみ下さい。

「学び直し」誕生前はトラブルだらけ!? 苦悩のエピソード

新任校長として赴任した千葉県立姉崎高校は、過去10年間、退学者が毎年100人前後もいる、県立高校の中ではワースト3、地域から「学校を潰せ」と言われてしまうほど教育困難校だった。

1年生200名の入試の成績は、生徒の半数が英語・数学共に零点。始業式・入学式では3分の1の生徒が茶髪で、校内にはク

ラス表示も男子トイレの鏡もない。極めつけは学校内外のあちこちにタバコの吸い殻。教室に入るのに10分かかり、授業中は「分かんねえ」「やりたくねえ」の連発だった。

そこでまず、生徒指導は規程の頭髪・服装に違反する生徒について、ゼロ・トレランス方式で徹底的に「再登校指導」するこ

とに。

右の「卒業アルバム」の半数は、茶髪である。クラス担任、生徒指導の担当が指導しても半数の生徒が従わなかったのだ。

しかし県教委の「自己啓発指導重点校」の指定を受け再スタートした姉崎高校は、1ヵ月で茶髪を一掃することに成功。茶髪の一掃は、小さな一歩だったが、姉高改革の大きな一歩だった。成功体験のない教職員にとって、「できない」と考えていたことが「できた」ことで、過去の「暗黒時代」といわれた前途に一条の希望の光を手応えとして感じ取れたのである。

基礎から徹底的に！ 学校設定科目「マルチベーシック」

某出版社の「高校学習指導基本調査」によると、高校生の8割が、本来小・中学生で身に付くはずの学習内容が未定着であるということが分かった。そこで、国・社・数・理・英の小・中学校の学習内容を分析し、最短で高校の授業を理解できるレベルまでの知識の底上げを担う教材、「マルチ」を作成。具体的な特徴として、①「診断カルテ」を作成することにより学習内容が明確化され、生徒自身が弱点に気づき自己評価でき

る、②学習意欲向上させるため、取り組んだ学習量を評価できる、③「基礎・標準・応用」という段階別の教材を使用し「ステップ方式」を取り入れることで集中力の持続と、生徒一人ひとりの学力差への対応を可能にする、などがあげられる。この「マルチ」の取り組みはマスコミからも注目され、県教育委員会の支援もあり「マルチベーシック」の冊子を発行。県内の公立中・高等学校に配付し、大好評を博した。

分からないことは、分かるまで。不易の「学び直し」

今回の学習指導要領の責任者であり文科省初中局教育課程課長だった合田哲雄氏は、『学習指導要領の読み方・活かし方』（教育開発研究所）の中で「義務教育の内容の習得が必ずしも十分ではない高校生に対して、基礎から徹底して指導し、着実に学力を定着させている高校の取組も見逃してはなりません。（中略）『マルチ』を導入し「診断カルテ」を活用し、生徒の達成感の向上や希望進路の実現など大きな実績を挙げました」と述べ、私が以前刊行した「『学び直し』が学校を変える」（日本標準）も紹介

されている。

私が転勤した7年後、退学ゼロを達成し、全国から310校が視察に訪れるほどに成長した。

現在流行している外国語活動や情報教育も大切だが、その土台となる不易の「読み、書き、計算」の学習の基盤を盤石にする「学び直し」は極めて重要である。また、分からないことを分かるようにする「学び直し」は、学習により生徒に自信を取り戻させ自己肯定感を高められること、不登校の生徒への特効薬になることが分かった。

学校再生 ロードマップ

地域からは「校名に地名を使うな」「学校を潰せ」とまで言われた教育再生校。
そんな姉崎高校に赴任した
校長が教職員と共に実施し、3年間で学校を翻らせ
たさまざまな「改革」をまとめました。

"before"～「自己啓発指導重点校」指定以前の姉崎高校～

不良生徒と荒れ果てた校舎…
地域社会から信頼されない学校

喫煙、自転車盗難、万引、ガラス破損等の問題行動が絶えない生徒が多く、地域住民から苦情が殺到。学校は地域社会や家庭からの信頼がなかった。

また、非行を繰り返す生徒は、「学習に自信が持てない」、「学校への帰属意識がない」、「将来の目標がない」という内面の特徴があげられ、結果として無気力、批判的、楽観的な考えを持つ。

「自己啓発指導重点校」とは？

生徒一人ひとりが夢を持ち、学習することの楽しさ、大切さ、素晴らしさを再発見できる学校

取り組み ②

学習基盤の整備

元気な学校づくりを目指し、クリーンアップ運動や学校への帰属意識を持たせるための活動を行う。そして大本命の改革「学び直し」の事前準備として、授業に集中するための学習環境を整えた。

学校外での取り組み

学校外では、ミニ集会の開催や参加、ボランティア活動の推進、出前授業の実施など地域・社会との交流を実施

授業マナー キャンペーン

各授業のはじめに、机の整列・座席・机上・服装の確認をし、学習環境を整備してから授業に入る



朝の 10分間読書

1日の学校生活を始める前に、言葉が流れ穏やかな雰囲気の中、生徒たちは思い思いの本を読む



クリーンアップ 運動

昼休みに校内にゴミが散乱していたところ、2学期から美化委員が顧問と一緒にゴミ拾いを始める。1ヵ月で見違えるほどきれいになる

遅刻対策

遅刻すると、遅刻カードに詳細が記録される。早朝登校（～8:00）による増設も可能



帰属意識の醸成

部活動・委員会活動の活性化、近隣の小学校や特別支援学校へのボランティアでの協力ができるボランティア委員会を設置。校内の良い情報を告知する広報委員会を設置

スローガフ

- あ かるい挨拶ができる。
- い 心に何事も取り組む。
- え い後まであきらめない。
- え 望や夢を叶える。

取り組み①

生活基盤の整備

「基本的な生活習慣の確立を目指した生徒指導の徹底」、「学ぶ意欲を持たせ学ぶことの喜びを実感してもらうための学習指導」、「インターンシップを含めたキャリア教育の充実」を目標として、まずは生徒の学校での生活基盤をしっかり固めることに注力した。

頭髪・服装指導

少しでも頭髪や服装に校則違反があった生徒には、再発防止を促す「再発指導」を実施



あいさつ運動

規律委員が中心となって、校門に立ち朝の挨拶を実施

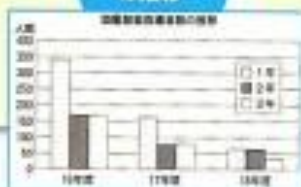


花いっぱい運動

保護者・生徒・教員のボランティア活動による、中庭や校舎の花植え運動。中庭には手作りのベンチを作り、憩いの場所に



頭髪・服装指導者数の推移



取り組み③

学習意欲向上を促す

勉強初期でつまずき、かけ算や漢字の書き取りも怪しい生徒は少なくなかった。そこで編み出されたのが「学び直し」の取り組みだ。授業形態の工夫を凝らし、分からないことを分けるまで徹底した学習指導を行い、基礎学力の定着を図った。

習熟度別授業

教科の習熟度に応じて生徒をグループ分けし、それぞれのレベルにあわせた指導を行う



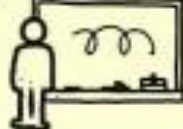
少人数授業

先生が生徒一人ひとりと向き合い、きめ細かな指導をする



チーム・ティーチング

複数の教員が役割分担し、協力し合いながら授業を行う方式



マルチパーシク

小・中学校の5教科の学習内容をもう一度学び直すことにより学習のつまずきをなくし、学習意欲の少ない生徒に、学ぶことの楽しさを感じてもらいながら基礎学力を身に付けさせることを目標とする学校設定科目「マルチパーシク」



学年	科目	単元	単元	単元	単元
1	国語	読書	作文	漢字	算数
2	国語	読書	作文	漢字	算数
3	国語	読書	作文	漢字	算数
4	国語	読書	作文	漢字	算数
5	国語	読書	作文	漢字	算数
6	国語	読書	作文	漢字	算数

"after"

充実した「学び」から生徒は自信を取り戻し、学校は地域からのマイナスイメージ払拭に成功

峰崎高校は「自己啓発指導重点校」に指定されてから3年間で、さまざまな取り組みにより劇的な変化を遂げた。その結果、地域社会から持たれていた負のイメージを払拭することに成功し信頼を得ることができた。

この功績に大きく貢献した一番のきっかけは生徒の内面的変化と言っても過言はないだろう。教員によるキャリア教育の充実までに発展した生徒指導、学習指導はもちろん、部活・委員会の活性化による学校への帰属意識の高まりが、生徒の自信回復に繋がった。

「マルチベーシック」深掘り解説！

劇中に繰り返し登場し、本作の重要なキーワードでもある「マルチベーシック」。
演劇の内容理解を深めるためにも「マルチ」(マルチベーシックの略)の概要を解説します。

マルチベーシックとは？

「マルチベーシック」で 基本的知識から再構築

「マルチベーシック」は、「学び直し」のための学校設定教科であり、基礎学力の定着を担う。具体的には、高校の教科及び科目を学習する際にベースとなるため必要不可欠な、国・社・数・理・英の基本的事項を小・中学校レベルから確認、復習しながら習熟を図る。義務教育の段階でつまづいてしまった生徒たちに救いの手を伸べ、もう一度基本知識から丁寧に積み上げていく。

成功体験の積み重ねを後押しし、 学習意欲を育む

「マルチベーシック」による学習指導で、“分からなかったことが分かるようになる”成功体験の積み重ねをバックアップすることにより、勉強はもとより生徒の規範意識と学習意欲を育む。あらゆる物事に対して主体的に取り組む姿勢が身につくことで、教育活動全体にも好影響を及ぼす。

① 授業形態の工夫

1年生を中心に1クラスにつき教員3名体制によるチーム・ティーチングを実施。少人数制授業で、教員がそれぞれ生徒のレベルにあわせた習熟度別指導を行う。

マルチベーシックの授業体制				
	月	火	水	木
1				
2				
3				
4				
5				
6				

マルチベーシック1の曜日別授業				
	月	火	水	木
1組	国語	数学	英語	社会
2組	国語	数学	英語	社会
3組	国語	数学	英語	社会
4組	国語	数学	英語	社会

単体と組は1週交代

② 授業実施方法の工夫

マルチI～IIIは、各学年4単位の科目で、3学年とも同じ時間帯に一斉に授業を行う。学年の隔てがないため、他学年の生徒と一緒に授業を受けることも。

マルチベーシック1の曜日別授業				
	月	火	水	木
1組	国語	数学	英語	社会
2組	国語	数学	英語	社会
3組	国語	数学	英語	社会
4組	国語	数学	英語	社会

習熟度別授業

少人数授業

③ 意欲向上の工夫

「自己診断カルテ」を作成することにより学習内容や評価が明確化。また、教員のみならず生徒自身が自己評価を記入することで、いち早く自分の弱点に気づくことができる。

自己診断カルテ				
	国語	数学	英語	社会
1				
2				
3				
4				
5				
6				

④ 教材の工夫

「基礎・標準・応用」という段階別(「3ステップ制」)の教材を使用することで、生徒一人ひとりの学力差への対応を可能にした。ステップ1～3までの3枚のプリントを順番に自分の能力に合わせて進めていく形になっており、生徒は課題を完成させる達成感と共に学習に対する自信が付き、意欲的に取り組むように。

ステップ1	ステップ2	ステップ3
マルチベーシック1 基礎・標準・応用 国語・数学・英語・社会 1. 基礎知識の確認 2. 標準知識の確認 3. 応用知識の確認 4. 総合的な学習 5. 学習の振り返り	マルチベーシック2 基礎・標準・応用 国語・数学・英語・社会 1. 基礎知識の確認 2. 標準知識の確認 3. 応用知識の確認 4. 総合的な学習 5. 学習の振り返り	マルチベーシック3 基礎・標準・応用 国語・数学・英語・社会 1. 基礎知識の確認 2. 標準知識の確認 3. 応用知識の確認 4. 総合的な学習 5. 学習の振り返り